

福祉文教委員会

討論テーマ③ ● 子育て環境の更なる充実について

■政策課題の発生源は…（背景）

子育ての孤立化の解消や子どもの遊び場・居場所と子育て世代が集い交流できる場所の同居といった部分において具体的かつ実態に即した計画となっておらず、特に妊娠期から乳幼児期の不安軽減の一助となる親同士の交流や居場所といった視点、運営目線でのシステムの在り方等に対するサービスの活用のしづらさ、不十分な連携機能等が当委員会の調査活動でも明らかとなった。

■求められる姿は…（目的）

子育てにおける相談は、より活用されやすいサービスとして充実を図ることが必要。併せて各サービスへのアクセスや連携の強化も必要である。また、親の居場所としての視点も取り入れた子どもの遊び場・居場所の充実も必要である。近年の酷暑や冬季にも利用可能なよりオープンなスペースの整備が進むことを望む。

■行政は何をすべきなのか…（基本的方向）

- ① 子育ての孤立と育児不安を軽減できる連携・サポート体制の強化
第一に接点となる保健師とのやり取りが重要。各種サービスへの窓口としての機能を強化されたい。
- ② 酷暑や冬季等も想定した子育て支援の拠点と、支所地域における連携施設の整備及び機能拡充の検討
既存の施設の機能拡充や空き家等を活用し、子ども達の遊び場・居場所の充実を積極的に図るとともに、親の居場所、親同士の交流スペースといった視点を持ち対策を講じられたい。
- ③ 次世代を育み、子育て環境を充実させる場として、時代に合った公園施設の在り方と配置計画の具体化
市民要望の多い新たな公園整備のニーズの把握に努め、既存の公園における利用状況や適正配置、規模、機能面等の分析が必要。特に、子育て環境の充実という視点から生じるニーズ、利便性や施設の在り方などに十分留意し対策を講じられたい。



■主な調査活動

- 新潟県長岡市への行政視察
- Hida mommy(ヒダママ)との分野別市民意見交換会

産業建設委員会

討論テーマ④ ● ポストコロナを見据えた観光政策の方向性について

■政策課題の発生源は…（背景）

アフターコロナの世界では、今までの成功体験や前例踏襲だけでは対応はできない。昨今はSDGsの指標を取り込んだ脱炭素社会へ向けた取組も盛んとなっており、SDGs達成への手段としてツーリズムを位置づけることの意義も大きい。市民からも幅広く知見やアイデアを求め、新たな思考や視点から観光政策を整えていくことが求められている。

■求められる姿は…（目的）

「レスポンスブル・ツーリズム」(責任ある観光)と「サスティナブル・トラベル」(旅行先の環境やコミュニティに配慮した観光)を基本目標に据え、脱炭素社会へ向けた取組を重視した「観光まちづくり」への考えを導入すべき。ワーケーションの取組などを通じて、国内客をも対象にした新しい交流人口の増加も図られる。観光まちづくり法人(DMO)によるプロジェクトマネジメントと連携し、これまでとは異なる次元での観光の掘り起こしを。

■行政は何をすべきなのか…（基本的方向）

- ① 訪れる観光客が地元の考え方や生活習慣を尊重し、風土に根ざした地元文化を深く体験・理解しようとするレスポンスブル・ツーリズム(責任ある観光)の推進を。
- ② 観光地の自然、社会環境、住民の生活・文化等に対して敬意を払うなどの持続可能性や環境への負荷を軽減するためのサスティナブル・トラベル(旅行先の環境やコミュニティに配慮した旅行)の推進を。
- ③ レスポンスブル・ツーリズムやサスティナブル・トラベルをアフターコロナの観光政策の柱として、官民合意の下で推進していくことが今後の方向性。
- ④ 登録DMOと行政との今まで以上の緊密な連携と役割分担が必要。
- ⑤ レスポンスブル・ツーリズムやサスティナブル・トラベルの推進を図るため、各課にまたがるプロジェクトチームを立ち上げ、政策のすりあわせや、役割分担での課題解決を図るべき。